

「血液内科 ただいま診断中！」〈1版2刷〉正誤表
(2017年12月現在)

「血液内科 ただいま診断中！」〈1版2刷〉をご購入いただきまして誠にありがとうございます。本書に以下の誤りがございましたので、ここに訂正・加筆させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

67頁 表「IPSS-R」3段目

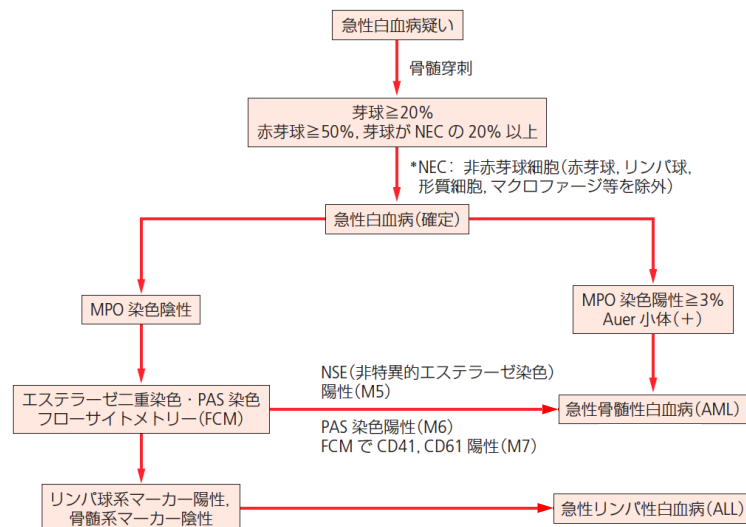
(誤) 1.5 未満

(正) 1.5 以下

リスク分類	点数	生存期間 (中央値)	25% AML 移行期間 (中央値)
Very low	1.5 以下	8.8 年	到達せず*
Low	1.5~3 以下	5.3 年	10.8 年
Intermediate	3~4.5 以下	3.0 年	3.2 年
High	4.5~6 以下	1.6 年	1.4 年
Very high	>6	0.8 年	0.73 年

123頁 上図「急性白血病の WHO 2008 分類にもとづく診断過程」

(正)



233頁 表「予後指標（○が予後不良因子）」右表
(正)

リスク	予後因子の数	
	IPI	aa-IPI
Low	0, 1	0
Low-Intermediate	2	1
High-intermediate	3	2
High	4, 5	3

315頁 表

(誤) 抗γグロブリン血症

(正) 高γグロブリン血症

	Castleman 病	IgG4 関連疾患
疫学	0.4人/10万人, 男:女=2:1 20~80代まで幅広く分布	高齢発症が多い
分類	hyaline-vascular type plasma cell type mixed type	自己免疫膵炎, IgG4 関連 Mikulicz 病など リンパ節腫大なども生じる
病理学的特徴	hyaline-vascular type ヒアリン化を伴う血管増生, 若年例で多く, localized disease に多い plasma cell type 形質細胞の増勢, 胚中心の活性化 B 細胞から IL-6 が過剰産生され多彩な臨床症状を示す	IgG4 陽性形質細胞や好酸球の浸潤 臓器によっては線維化のパターンが鑑別に重要 ・ storiform fibrosis ・ swirling fibrosis ・ obliterative fibrosis
臨床症状	倦怠感, 発熱, 体重減少など	腫瘤の増大に伴う症状
検査所見	CRP 上昇, 低アルブミン血症, 高γグロブリン血症など炎症を反映	高ガンマグロブリン血症, IgG4 > 135mg/dL など
治療	localized ならば手術 multicentric なら PSL, 抗 IL-6 抗体	PSL 0.5mg/kg/ 日から開始